

ラビライト®水和剤

LABILITE

登録番号 第11995号

種類名 チオファネートメチル・マンネブ水和剤
thiophanate-methyl・maneb

殺菌剤分類 1, M3

性状 淡黄色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4年

有効成分 チオファネートメチル 20.0%、マンネブ 50.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 500g×20袋、1kg×10袋

■特長

- 対象病害の異なる2種薬剤の配合剤ですから、りんご、みかん等の果樹病害の総合防除剤として最適です。
- 果樹、いも類、ばら、チューリップの広範囲の病害に卓効があり、速効性と残効性があります。

最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害虫名及び使用方法

(2024年10月7日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用 液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	チオファネート メチルを含む農薬 の総使用回数	マンネブを 含む農薬の 総使用回数	使用 方法
みかん	黒点病 小黒点病 そうか病 灰色かび病 ミカンサビダニ	500～ 800	200～ 700	収穫60日 前まで	2回以内	8回以内 〔塗布は3回以内、 散布、空中散布 及び無人航空機散布 は合計5回以内〕	2回以内	散布
	黄斑病 そばかす病	500						
りんご	すす点病 すす斑病 黒点病 炭疽病 うどんこ病 褐斑病 黒星病 斑点落葉病 輪紋病 腐らん病	500～ 600		収穫30日 前まで	1回	10回以内 〔塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内〕	1回	
ぶどう	晩腐病	800～ 1,000		落弁期まで 但し、収穫 75日前まで	1回	5回以内 〔塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は1回以内〕	2回以内	
かき	炭疽病 うどんこ病 落葉病	500～ 800		収穫45日 前まで	2回以内	10回以内 〔塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は6回以内〕		
なし	黒星病 黒斑病				3回以内	11回以内 〔塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、灌注は 1回以内、生育期 の散布は6回以内〕	3回以内	
	輪紋病	500						
ばれいしょ	疫病	400～ 600	100～ 300	収穫14日 前まで	4回以内	5回以内 〔種いもへの処理 は1回以内〕	7回以内	

殺 菌 剤 ラビライト水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	チオファネート メチルを含む農薬 の総使用回数	マンネブを 含む農薬の 総使用回数	使用 方法
やまのいも	葉渋病 炭疽病	400	100～ 300	収穫14日 前まで	4回以内	5回以内	4回以内	散布
ばら	黒星病 うどんこ病	500～ 800		—	5回以内		8回以内	
チューリップ	褐色斑点病 灰色かび病							

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. アルカリ性薬剤及び銅剤との混用はさけてください。又、銅を含む薬剤との連用は薬害のおそれがあるのでさけてください。それらの薬剤との散布間隔は7日以上おいてください。
3. ばらに使用する場合、葉に汚れを生じるおそれがあるので特に施設内での使用の場合に留意してください。
4. なしに使用する場合、若葉には薬害を生じるおそれがあるので、葉が十分展開したのち（6月以降）に使用してください。
5. りんごに使用する場合、葉面散布肥料との混用は薬害が生じるおそれがあるのでさけてください。
6. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
7. 本剤を使用した場合には、ベノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種粕への処理及び塗布処理は除きます。
8. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用の場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意

9. 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
10. 皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とししてください。
11. 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
12. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
13. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物への影響：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した場所に保管してください。（高温下、および湿気を吸うと分解して効力が低下します。）

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。